

明治期の窮地救った至誠、勤労、分度、推譲

報徳の杉山地区
清水区 未来へ

報徳社ゆかりの施設の案内を受ける参加者＝5月上旬、静岡市清水区杉山

児童が写真集作成

Q 杉山報徳社 明治初期に杉山村の窮状を見た片平信明が、二宮金次郎の門人との出会いに着想を得て、地元有志らと設立。夜学校で青年教育を行ったほか、新産業として茶やミカンの栽培資金を助成するなど、報徳思想に基づき村の復活に尽力した。村は1924年に当時の加藤高明首相が視察に訪れるなど報徳思想の成功例として全国に名が広まり、各地の報徳運動に影響を与えたとされる。

「報徳思想について知っていますか」。5月上旬、写真集作成に向け行われた初めての現地調査。同地区で1876年（明治9年）から教えを实践する「杉山報徳社」の職員が親子連れ約20人に問いかけたが、手はほとんど挙がらなかった。「二宮金次郎は知っていても、至誠、勤労、分度、推譲を説いた尊徳の考えを知らない人は多い」。長年、普及に取り組んできた白鳥千尋理事長（75）は寂しげに

話す。明治初期、収入源の柱としていた植物油の価格が暴落し、大きな危機に陥った杉山村（現在の杉山地区）は、地元名士の片平信明（1830～98年）らによって設立された同報徳社による教育、農業支援で「農村経済の模範村」と呼ばれるまで復活を遂げた。

同報徳社は2026年に創立150周年を迎えるに当たり、地元の子ども会と協力し写真集の作成を始めた。現地調査を皮切りに、26年5月まで児童らが報徳社ゆかりの杉山青年夜学校や特産のミカン畑など、地区内の四季折々の姿を自由に撮影。選考、編集も児童が行い、同年10月の完成を目指す。